

The background of the slide is a collage of three images. The top left shows a group of people's hands holding glasses of beer around a table with food. The top right shows a person in a lab coat and blue gloves using a pipette to transfer liquid into test tubes. The bottom center shows a white plate with several yellow capsules, a small bowl of brown powder, and some green leaves. The KIRIN logo is at the top center.

KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリングループ 2025年12月期 第3四半期決算

2025年11月11日

- キリンホールディングスの高岡です。よろしくお願いいたします。
- それでは早速、第3四半期決算についてご説明いたします。まず、2ページをご覧ください。

2025年度 3Q実績サマリーと通期業績見通し



(億円)	25年3Q 実績	24年3Q 実績	増減	%
売上収益	17,561	16,997	564	3.3%
事業利益 *	1,705	1,620	85	5.2%
税引前四半期利益	1,673	1,560	113	7.3%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	1,028	793	236	29.7%
期中平均株式数 (百万株)	810	810	0	0.0%
EPS (円)	127	98	29	29.7%

* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

© Kirin Holdings Company, Limited

2025年度 3Q実績

- 事業利益の増加や前年に計上したFANCL段階取得差損の反動などのプラス要因により、税引前利益と親会社所有者利益は前年を上回って推移
- EPSは、親会社所有者利益の増加により対前年増で推移
- 事業利益についても、日豪の酒類事業をはじめ各事業の順調な進捗とFANCLの年初からの寄与により、計画・前年を上回って推移

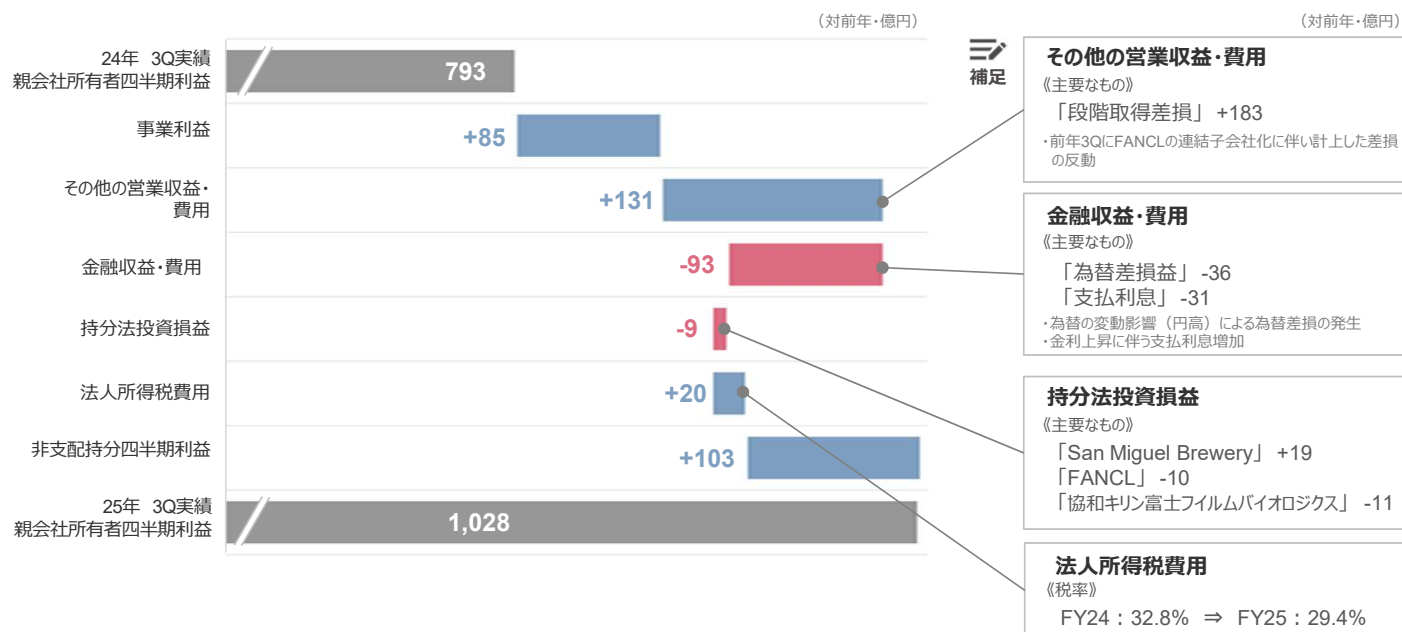
通期業績見通し

- 第3四半期における通期業績予想の修正はない*
- * 後述するアサヒグループホールディングス社のサイバー攻撃の影響に伴う一時的な需要増のプラス影響など、定量的予測ができない事由があるため予想は据え置く
- 親会社所有者利益とEPSは、2Qまでに発生した要因により下振れリスクはあるが、事業利益の上振れなどにより、計画達成を目指す

- 第3四半期決算の連結売上収益は、対前年プラス約3%、連結事業利益については、対前年プラス約5%と増収増益です。
- 事業利益は、前年・計画共に上回っており、順調に進捗しております。
- 事業利益の増加に加えて、前年の一時コストの反動などで、親会社所有者利益やEPSも前年を上回って推移しています。
- なお、現時点では不確定要素もあることから、第3四半期における、通期業績の見通しは変更致しません。
- EPSとボトム利益は、事業利益の上振れなどにより年初計画の達成を目指してまいります。

2025年度 3Q実績：親会社の所有者に帰属する四半期利益増減

▶ 今年度よりキャッシュフロー向上・株主価値最大化のためにボトムの利益まで上げる取り組みを行っており、昨年比で大幅に改善

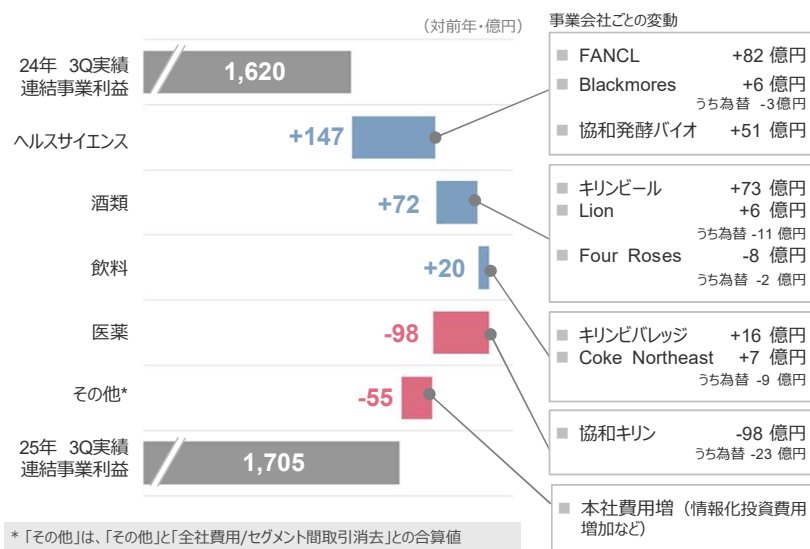


© Kirin Holdings Company, Limited

3

- 3ページは、事業利益以下の説明です。
- 今年度より、財務KPIを平準化しないEPSに変更し、ボトムの利益までしっかり上げていく取り組みが奏功し、昨年対比で大幅に改善を図ることができています。
- 今後も必要な構造改革はしっかりと取り組みつつ、EPSの成長に取り組んでまいります。

2025年度 3Q実績：各セグメントの進捗／ポイント



トピックス

全般

- ▶ 計画通り医薬事業は減益だが、それをヘルスサイエンス事業と国内酒類事業の増益でカバーし計画を上回って順調に進捗
- ▶ アサヒグループホールディングス社のサイバー攻撃の影響により国内の酒類等の販売数量は一時的な需要増が発生。現時点では通期業績へのプラス影響は定量的に予測することが困難

ヘルスサイエンス事業

- ▶ 各事業とも、計画に対して好調に進捗

酒類事業

- ▶ Lionは、10月に新CEO・COOが就任。これに合わせて迅速に意思決定できるリーンなマネジメント体制へと移行

医薬事業

- ▶ 9月にKHK4083のPh3 Ascend試験のトップラインデータを公表。想定通りに進捗しており、今後詳細データを開示予定

事業利益 為替感応度

USD (米ドル) +8億円/1円安
AUD (豪ドル) +4億円/1円安

米国関税の影響

- ▶ 従前の状況から大きな変化はない
- ▶ グループの事業に与える影響は大きくないと見込む

- 4ページでは、セグメント別の事業利益増減とトピックを載せています。
- 計画通りである医薬事業の減益を、ヘルスサイエンス領域の各事業の順調な成長や、国内酒類の大幅増益でしっかりとカバーし、前年も計画も上回って進捗しています。
- 競合のサイバー攻撃の影響により、国内の酒類等の販売数量は一時的な需要の増加が発生しています。通期業績への影響はポジティブなものの、現時点ではプラス影響を定量的に予測することが難しい状況です。
- Lionでは豪州・ニュージーランドでマネジメント体制に変更がありました。Lionは2年前から構造改革をして成果を生み出してきましたが、より市場の変化に迅速に対応できる体制を取り、オセアニア酒類事業の成長戦略に注力していきます。
- 各事業の売上・利益についての詳細は、後ほど資料編をご確認ください。
- 以上、第3四半期決算の進捗について、ご説明いたしました。

ESG



Lionが「B Corporation」*の認証を取得

* 社会・環境パフォーマンス、説明責任、透明性などにおいて高い基準を満たした企業に対してB Lab社によって与えられる認証



- ▶ Lionが長年掲げてきた“Force For Good***”を評価いただいた
***Lion独自のサステナビリティ戦略。環境・社会・ガバナンスの3つの柱でLionならではの強みを活かせる分野に絞って取り組みを推進
- ▶ これまでも個別ブランド（Stone & Wood）がB Corporation認証を取得していたが、今回の認証はLion全体に対するもの
- ▶ 今後、Lionは「B Corporation認証企業が製造した製品」であることを各ブランドにて謳うことができ、豪州・NZのお客様にとっても、Lionの製品を購入することで「ガバナンス」「労働者」「地域社会」「環境」「消費者」の5つの領域で厳格な基準を満たす企業を支持することに繋がる



詳細はこちら

Environment

気候変動に対応した持続可能なビール原料の生産技術を開発

- ▶ 猛暑や干ばつによりホップの収量・品質が低下する課題がある中、キリンでは、当該課題に対応する高温・乾燥耐性を後天的に付与する苗の作成技術を開発
- ▶ 香味品質を損なわずホップに耐性を付与できるこの技術により、持続可能なビール原料供給の実現への貢献が期待できる



左:未処理苗 右:熱処理苗
品種「ザーツ」 岩手県江刺市



詳細はこちら

Social

科学的根拠のある「健康に配慮した飲み方」に関する研究を開始

- ▶ 国内外で飲酒におけるガイドラインが公表され、その普及が重要である中、キリンビールは国立大学法人筑波大学と共同して科学的根拠のある「健康に配慮した飲み方」などに関する総合的な研究を開始
- ▶ キリンビールは節度ある飲酒文化の醸成とところ豊かな社会の実現を目指し、アルコールの有害摂取根絶に向けた活動を「未来に向けた責任」として取り組んでいる

未来に向けた責任
DRINK FOR FUTURE

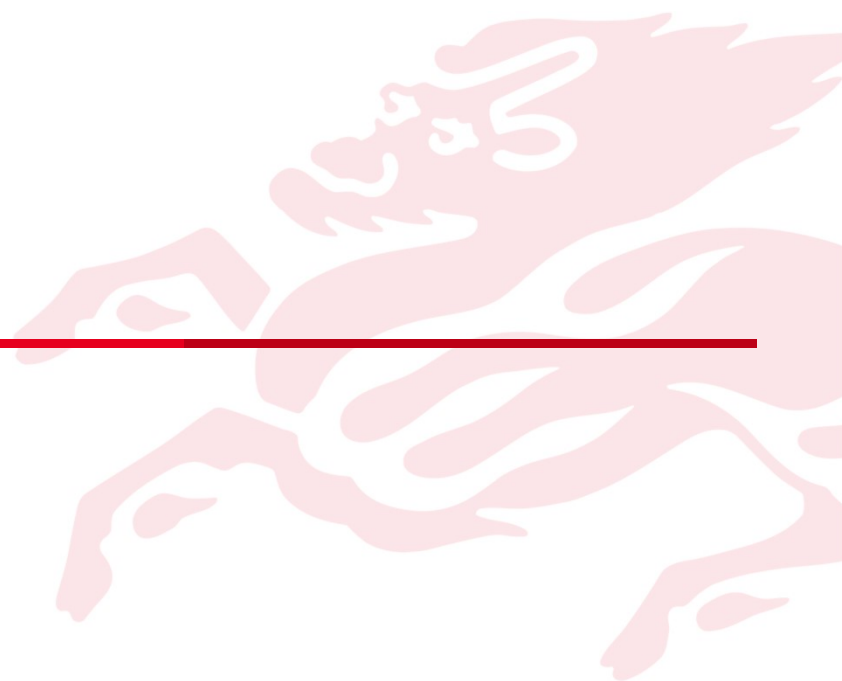


詳細はこちら



資料編

Joy brings us together



2025年度 3Q実績：セグメント別 売上収益



(億円)		2025年3Q実績	2024年3Q実績	増減	%
連結 売上収益		17,561	16,997	564	3.3%
酒類	キリンビール	7,694	7,942	-248	-3.1%
	Lion	4,785	4,917	-132	-2.7%
	うち豪州・NZ	1,984	2,124	-140	-6.6%
	うち北米クラフト他	1,334	1,426	-92	-6.5%
	Four Roses	650	698	-48	-6.8%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	188	193	-5	-2.7%
		737	708	29	4.0%
飲料		4,296	4,221	75	1.8%
	キリンビレージ	2,017	2,008	9	0.4%
	Coke Northeast	2,217	2,147	70	3.2%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	63	66	-3	-4.8%
医薬		3,492	3,626	-134	-3.7%
	協和キリン	3,495	3,628	-133	-3.7%
	セグメント間取引消去	-2	-2	-0	—
ヘルスサイエンス		1,879	1,051	828	78.7%
	FANCL	829	—	829	—
	Blackmores	511	509	2	0.3%
	協和発酵バイオ	384	379	6	1.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	155	164	-8	-5.0%
その他		199	156	43	27.6%

2025年度 3Q実績：セグメント別 事業利益



(億円)		2025年3Q実績	2024年3Q実績	増減	%
連結 事業利益		1,705	1,620	85	5.2%
酒類		909	837	72	8.6%
	麒麟ビール	599	525	73	14.0%
	Lion	184	177	6	3.4%
	うち豪州・NZ	131	118	13	11.1%
	うち北米クラフト他	52	59	-7	-11.9%
	Four Roses	67	75	-8	-10.2%
	その他	60	60	-0	-0.2%
飲料		527	507	20	3.9%
	麒麟ビバレッジ	170	153	16	10.6%
	Coke Northeast	349	342	7	1.9%
	その他	8	11	-3	-26.8%
医薬		611	709	-98	-13.8%
	協和麒麟	611	709	-98	-13.8%
ヘルスサイエンス		127	-20	147	—
	FANCL	82	—	82	—
	Blackmores	51	44	6	14.5%
	協和発酵バイオ	8	-43	51	—
	その他	-14	-22	8	—
その他		-12	-2	-9	—
全社費用・セグメント間取引消去		-456	-410	-46	—

FANCL

(億円)	25年 3Q実績*	[参考]	25年3Q 実績	24年3Q 実績	%
売上収益**	829	売上収益**	829	782	6.0%
化粧品(スキンケア)	456	化粧品 (スキンケア)	456	432	5.5%
サプリメント	328	サプリメント	328	304	7.8%
事業利益*** [事業利益率]	82 9.9%				
* FANCLの連結取り込み開始は24年4Qのため、1Qから3Qまでの前年実績記載はない ** その他事業を含む *** PPA(Purchase Price Allocation)による無形資産等の償却費を含む					
		[参考] 25年 3Q実績 地域別金額 対前年増減			%
		国内			1.5%
		海外			57.4%

売上
収益
(参考)

化粧品(スキンケア)事業：

- 国内外ともに「Attenir」ブランドが引き続き好調を牽引し、全体として増収となった

サプリメント事業：

- 海外での年代別サプリなどが好調で増収

事業
利益
(参考)

- 売上収益の増加に伴う粗利増が寄与し、前年を上回った

※キリン連結取込前(日本基準・無形資産償却前)

Blackmores

豪ドルベース (million AUD)	25年3Q実績	24年3Q実績	増減	%
売上収益*	540	507	33	6.6%
豪州・NZ	241	227	13	5.9%
東南アジア・韓国	141	121	20	16.3%
中国	157	153	4	2.8%
事業利益** [事業利益率]	54 9.9%	44 8.7%	10	21.6%
* その他受託業務を含む合計 ** PPA による無形資産等の償却費を含む				
通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 25年3Q実績：94.58円(豪ドル) 24年3Q実績：100.49円(豪ドル)				

売上
収益

各エリアの取組が奏功し、増収を達成

- 豪州・NZ：セット販売などの販促や新商品に下支えされ、昨年から好調なモメンタムが継続
- 東南アジア・韓国：特にマレーシア・インドネシアなどで、引き続き複数の注力商品が好調に推移し、エリア全体で増収
- 中国：競争環境が厳しい中でも、輸出チャネルにおけるディストリビューターとの取組が順調であること、及び市場ニーズに応える高付加価値商品の上市等により、増収を達成

事業
利益

- 増収による売上総利益の増加が、成長投資による販促費等の増加を上回り、増益で着地

(億円)	25年3Q実績	24年3Q実績	増減	%
売上収益	4,785	4,917	-132	-2.7%
ビール類計*	—	—	—	-3.1%
RTD	—	—	—	-0.0%
ノンアルコール飲料	—	—	—	-2.1%
酒税抜売上収益	2,966	2,985	-19	-0.6%
事業利益	599	525	73	14.0%
【事業利益率】**	20.2%	17.6%		

* 2025年度よりカテゴリー開示は販売数量ベースから金額ベース（売上収益）の前年比へ変更
** 対酒税抜売上収益

24年3Q 事業利益 (億円)	525	主な内容
対前年増減		
酒類等 限界利益増	37	ビール類計 △80億 ビール類以外計 △19億 価格改定・品種構成差異等 136億
原材料費減	7	市況影響等
販売費減	36	マーク費減等
その他費用増	-6	経費増 他
計	73	
25年3Q 事業利益	599	

(千KL)	25年3Q実績	24年3Q実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
一番搾りブランド計	279	270	3.2%	-1%
一番搾り計	219	225	-2.6%	-1%
晴れ風	48	58	-17.3%	-1%
淡麗グリーンラベル	94	102	-7.7%	-8%***
本麒麟	114	131	-13.1%	-8%***
氷結ブランド計	219	222	-1.3%	— ****

*** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②）合算のエコノミーカテゴリー前年比を記載
**** アサヒグループホールディングス社の実績不明のため未算出

- | | |
|------|--|
| 売上収益 | ➤ 市場全体の販売数量がエコノミーカテゴリー中心に落ち込んだ影響もあり、減収となった |
| 事業利益 | ➤ 「一番搾りブランド計」は、「一番搾りホワイトビール」の寄与もあり、前年・市場を上回った |
| トピック | ➤ 価格改定効果により販売数量の減少をカバーするとともに、市況影響による原材料費減や、効率的なマーク投資を行ったことなどにより、増益となった |
| | ➤ 9月発売の「ラガーゼロ」、10月発売の「グッドエール」は、共に計画を上回る進捗で、今期の販売数量計画を上方修正している |

豪ドルベース (million AUD)	25年3Q実績	24年3Q実績	増減	%
売上収益	2,098	2,113	-15	-0.7%
うち豪州・NZ	1,410	1,418	-8	-0.6%
うち北米クラフト他	688	695	-7	-1.0%
事業利益 [事業利益率]	194 9.3%	177 8.4%	17	9.9%
うち豪州・NZ [事業利益率]	139 9.8%	118 8.3%	21	18.1%
うち北米クラフト他 [事業利益率]	55 8.0%	59 8.5%	-4	-6.4%

通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 25年3Q実績：94.58円(豪ドル)
24年3Q実績：100.49円(豪ドル)

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

24年3Q 事業利益	118
数量	-6
豪州・NZ 其他*	27
25年3Q 事業利益	139

* 本社コストは、豪州・NZを含む

販売数量前年比

豪州・NZ・北米クラフト他合計	-1.6%
豪州のみ	-0.3%

豪州・NZ

- ▶ 豪州は、「Hahn」及び「Stone & Wood」の販売が前年・市場を上回り好調に推移したことで増収となった
- ▶ 「Stone & Wood」は通常ブランドの1.5倍の価格でも対前年2桁成長を実現しており、数量だけでなく単価向上にも寄与
- ▶ 家庭用チャネルの価格改定や、価格戦略による単価上昇が寄与した一方で、NZの数量減が影響し、売上収益は豪州・NZトータルで前年並みとなった
- ▶ 価格改定に伴う売上総利益増加に加え、構造改革に伴う固定費の削減、費用投下タイミングのズレもあり大幅増益となった

北米クラフト他

- ▶ 「Voodoo Ranger」ブランドの堅調な販売により市場を上回ったものの、外部環境の悪化に伴う市場縮小の加速が影響し、前年微減となった
- ▶ 販売状況を加味したコストコントロールを実施したものの販売数量減が影響し減益となった

Kirin Beverage

(億円)		25年3Q実績	24年3Q実績	増減	%
売上収益		2,017	2,008	9	0.4%
ヘルスサイエンス飲料		306	274	32	11.8%
事業利益 [事業利益率]		170 8.4%	153 7.6%	16	10.6%
販売数量 (万ケース)		25年3Q実績	24年3Q実績*	増減	%
ブランド別	午後の紅茶	3,516	3,662	-4.0%	
	生茶	1,983	2,403	-17.5%	

売上
収益

▶ 価格改定に伴う単価上昇、及びヘルスサイエンス飲料の売上拡大により、販売数量の減少の影響を吸収し、前年並みとなった

事業
利益

▶ 原材料の高騰や販売数量の減少の影響を、価格改定の効果等が上回り、増益となった

トピック

▶ 免疫市場の拡大に向けて、子供向けプラズマ乳酸菌入り飲料「ムテキキッズ」を発売するなど、新たな取り組みを強化している



*プラズマ乳酸菌入り飲料等の一部商品について、「ヘルスサイエンス飲料」とする算出方法への変更に伴い、2024年3Qの数字を適正修正しています。

Coke Northeast

USDベース (million \$)		25年3Q実績	24年3Q実績	増減	%
売上収益		1,500	1,416	84	5.9%
事業利益 [事業利益率]		236 15.7%	226 15.9%	10	4.6%
通期予想レート：145.00円 (米ドル) / 25年3Q実績：147.78円(米ドル) 24年3Q実績：151.59円(米ドル)					

売上
収益

▶ 店頭露出の最大化等による販売数量の増加、及び価格マネジメントによる単価上昇が寄与し、増収となった

事業
利益

▶ 売上収益の増加に加え、オペレーションの効率化による販管費の増加の抑制により、増益となった

(億円)	25年3Q実績	24年3Q実績	増減	%
売上収益	3,495	3,628	-133	-3.7%
事業利益 [事業利益率]	611 17.5%	709 19.5%	-98	-13.8%

(億円)	Crysvita クリスピータ		Poteligeo ポテリジオ	
	25年3Q実績	24年3Q実績	25年3Q実績	24年3Q実績
日本	97	82	12	14
北米	920	872	251	216
EMEA	424	371	73	60
その他	26	23	1	1
合計	1,467	1,349	337	291

協和キリンの決算発表はこちら

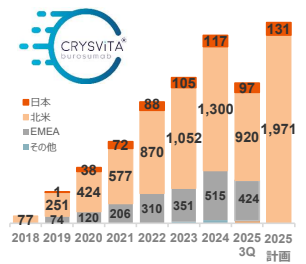
<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>



事業利益 増減



Crysvitaの成長



売上 収益

▶ Crysvitaをはじめとする主力製品の販売は前年を上回って推移しているものの、EMEA地域における前年同期のライセンス譲渡収入の反動影響を及び、前年のAPAC事業再編に伴う売上減少の影響を受け、減収

事業 利益

▶ 販管費は減少したものの、EMEA地域における昨年度のライセンス譲渡の反動、前年のAPAC事業再編による粗利益の減少と研究開発費の増加が影響し、減益

2025年10月30日現在

	開発中の疾患*1		承認予定年*2	開発ステータス	市場規模*3	患者さんの数*4
Rocatinlimab KHK4083/AMG 451	中等症から重症のアトピー性皮膚炎		2026/2027	P3（グローバル）	★★★★★	16M
	結節性痒疹		TBD	P3（グローバル）	★★★★	1M
	中等症から重症の喘息		TBD	P2（グローバル）	★★★★★	13.5M
Infigratinib KK8398	軟骨無形成症		TBD	P3（日本）準備中	★	6K
Ziftomenib	急性骨髄性白血病 (NPM1変異又はKMT2A再構成)	再発・難治（2L+）	2025 (単剤、米国)	P2（米・欧）	★★★★	20K
		1次治療（1L）	TBD	P3（グローバル）		
KHK4951 tivozanib 点眼	滲出型加齢黄斑変性		TBD	P2（日・米）	★★★★	3810K
	糖尿病黄斑浮腫		TBD	P2（日・米）	★★★★	3470K
OTL-203	Ⅱ型糖尿病（Hurler症候群）		2029/2030	ピボタル試験*5 (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人*6
OTL-201	Ⅲ型糖尿病（Sanfilippo症候群A型）		TBD	POC試験*7	★	生児出生の 10万人に1人以下

*1 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。*2 最初に承認が期待される年です。*3 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に協和キリンが独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1000億円未満、★★★: 1000億円以上-5000億円未満、★★★★: 5000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上 *4 協和キリン独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。*5 P3試験相当。*6 「10万人に1人」はMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。*7 P1/2試験相当。

財政状態計算書 キャッシュ・フロー計算書



財政状態計算書

キャッシュ・フロー計算書

(億円)	2025年3Q実績	2024年4Q実績	増減
資産合計	33,101	33,542	-440
資本合計	14,571	15,337	-766
負債合計	18,530	18,204	325
ROIC*	—	4.1	—
グロスDELシオ	0.84	0.73	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	2.39	—
PBR(株価純資産倍率) ***	1.5	1.4	—

ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示

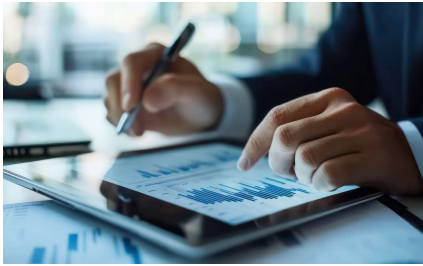
(億円)	2025年3Q実績	2024年3Q実績	増減
営業活動CF	1,697	1,786	-89
投資活動CF	-978	-2,595	1,617
フリーCF	719	-809	1,529
財務活動CF	-493	1,001	-1,494

- ▶ **資産合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債権及びその他の債権の減少等により、前年度末に比べ440億円減少して3兆3,101億円となりました。
- ▶ **資本合計**：FANCLの追加取得に伴う非支配持分の減少及び為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の減少等により、前年度末に比べ766億円減少して1兆4,571億円となりました。
- ▶ **負債合計**：新規発行によるコマーシャルペーパーや社債の増加等により、前年度末に比べ325億円増加して1兆8,530億円となりました。
- ▶ **グロスDELシオ**：有利子負債が14%増加し、親会社の所有者に帰属する持分が1%減少したことから、前年度末から増加しました。
- ▶ **PBR**：期末株価終値が6%上昇した一方で、親会社の所有者に帰属する持分が1%減少したことから、前年度末から増加しました。

- ▶ **営業活動CF**：前年同期に比べ89億円減少の1,697億円の収入となりました。税引前四半期利益として1,673億円を計上しました。また、前年同期に比べ非資金損益項目である段階取得に係る差損が183億円の減少となりました。
- ▶ **投資活動CF**：前年同期に比べ1,617億円減少の978億円の支出となりました。有形固定資産及び無形資産の取得については前年同期に比べ65億円増加の1,037億円を支出、また、預託金の預入により77億円を支出しました。
- ▶ **財務活動CF**：493億円の支出（前年同期は1,001億円の収入）となりました。非支配持分からの子会社持分取得により817億円、配当金の支払により731億円、長期借入金の返済により300億円、社債の償還により250億円の支出がありました。

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出
 ** 平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金にて算出
 (注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。
 *** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く)) にて算出

➤ キリンホールディングス
IR情報



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/>

➤ キリンホールディングス
Investor's Guide*



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/guide/>

➤ キリンホールディングス
統合レポート



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/integrated/>

* 「Investor's Guide」は、投資家様向けにキリングループの経営計画、事業概要や各事業の保有意義などをまとめた資料です。

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together